

柴山昌彦前文部科学大臣・
自由民主党幹事長代理

中村伊知哉iU学長

松下佳代京都大学教授

松原聡東洋大学教授

withコロナ時代の大学教育
—オンライン講義は何をもたらしたのか—

2020年12月12日

国際公共経済学会第35回研究大会


- ご意見、ご質問は Webinar のQ&A機能をお使いください。学会スタッフが集約させていただき、シンポジウムの最後にまとめて紹介させていただきます。
- 本日の資料などは、学会HP (ciriec.com)に順次掲載します。

「コロナ禍対応のオンライン講義に関する 学生意識調査」

2020年度、コロナ禍対応として日本の多くの大学でICTを活用したオンライン講義が実施されている。本調査では2020年度前期について、全国の中堅大学の学生にオンライン講義の実情や学習成果に関する意識調査のための、アンケート調査を行った。

本調査は、オンライン講義にたいする学生の評価を分析するとともに、ここまで日本においては十分に進んでいたとはいえない高等教育へのICTの活用が、このコロナ禍対応のオンライン講義の経験を通じ、これからどう活かされるかを探ることを目的とした。


アンケート調査の概要



□アンケートは、学生および調査担当教員に実施した。教員アンケートは、主として、学生アンケートとのクロス集計用に取得した。なお、調査担当教員は、当研究グループおよびその関係者20名である。

□アンケートはGoogleフォームを用いて実施した。学生アンケートは、調査担当教員の担当する33科目それぞれに、同一内容のGoogleフォームを生成して、講義ごとに個別に実施し、それを集計した。

□学生アンケートでは、「データは、個人を特定せずに集め、研究目的にのみ利用します。みなさんの成績等に影響することはありません。」と示した上で、学籍番号等、個人を特定する情報は取得しなかった。



学生アンケート

□学生アンケートの構成

- ①フェイスシート（5問）、②オンライン講義全般について（12問）
- ③当該受講科目について（6問）、④語学、演習科目について（3問）、
- ⑤講義全般について（3問）、の29問で構成。

□学生アンケートの特色

- オンライン講義と対面講義の比較を中心に、意見聴取を行った。
- 学生は同一講義でのオンラインと対面での比較はできないため、現在受講しているオンライン講義と、過去に受講した対面講義との比較を尋ねた。
- 対面講義の経験のない1年生を除外した。
- 意見の分散を避けるため、調査対象講義を講義の性格に近い「文系・一般講義科目」に限定し、実習、演習や語学、理工系科目などは、対象外とした。

学生アンケートの集計結果

□調査担当教員所属大学（15大学）：大阪市立大学、作新学院大学、札幌大学、島根県立大学、淑徳大学、椋山女学園大学、大東文化大学、高崎経済大学、中央大学、中京大学、東京交通短期大学、東洋大学、名古屋学院大学、兵庫県立大学、弘前大学

□対象学部数：17学部

□対象科目数：33科目（総履修学生数3,191人）

□調査担当教員数：20名

□調査期間：2020年7月

□回答数：1,426件

□回答率：44.7%（回答数／履修者数）

調査結果の概要

オンライン講義に対する学生の評価、概ね高い

- オンライン講義希望40%、対面希望33%
- 自由回答文の極性分類 オンラインにポジティブ41%、ネガティブ26%
- 学習効果、授業の集中度は互角
- 「通学時間がかからない」、「繰り返し復習ができる」、「私語がない」といった評価

不満点は、課題等の負担増と、コミュニケーション不足

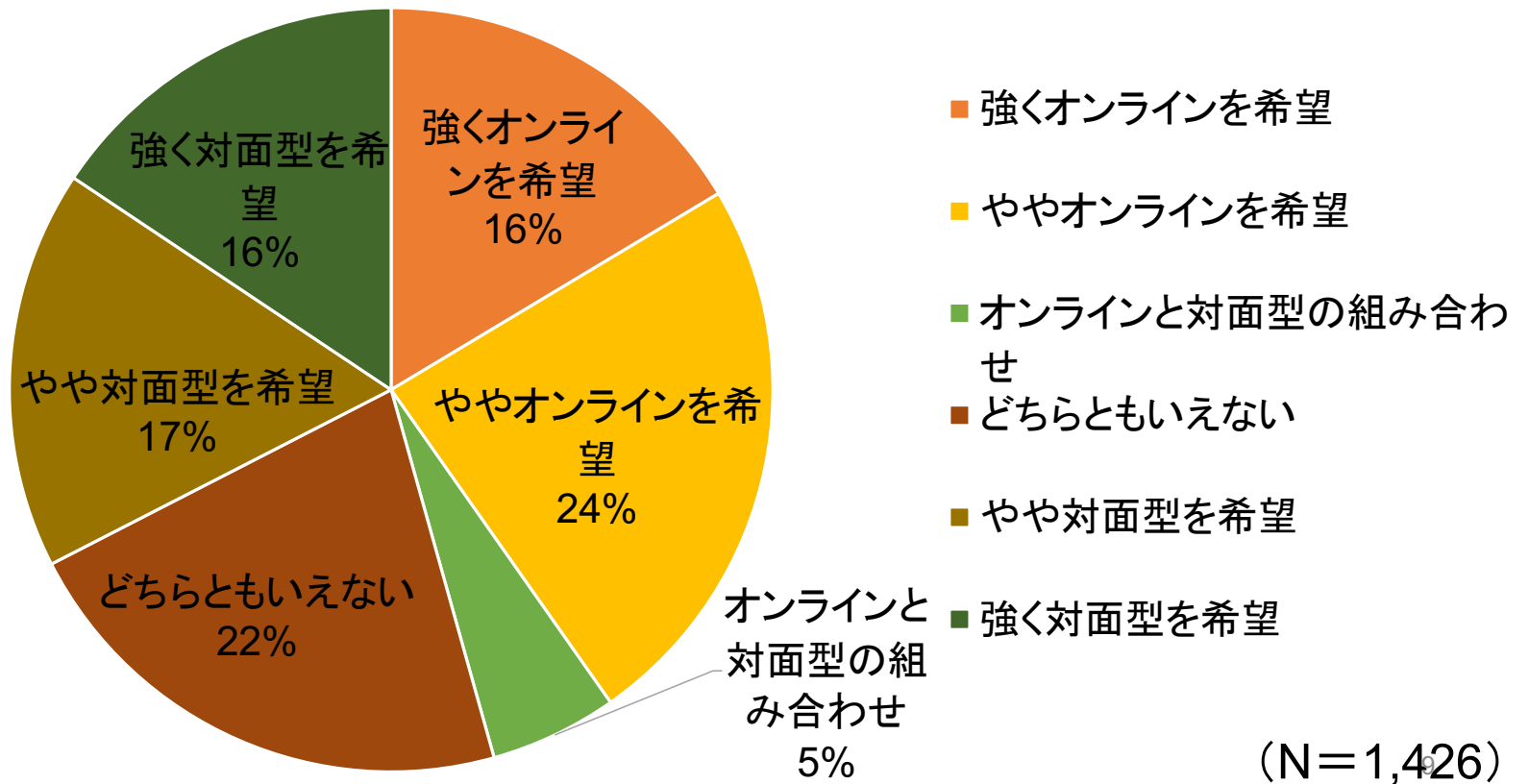
- 負担増77%、コミュニケーション不足57%
- 「自宅だと授業に集中できない」、「音声や動画が途切れて聞き逃すことがある」、「開始・終了のメリハリがない」といった評価

教員の負担感と学生の評価との間には、相関がない

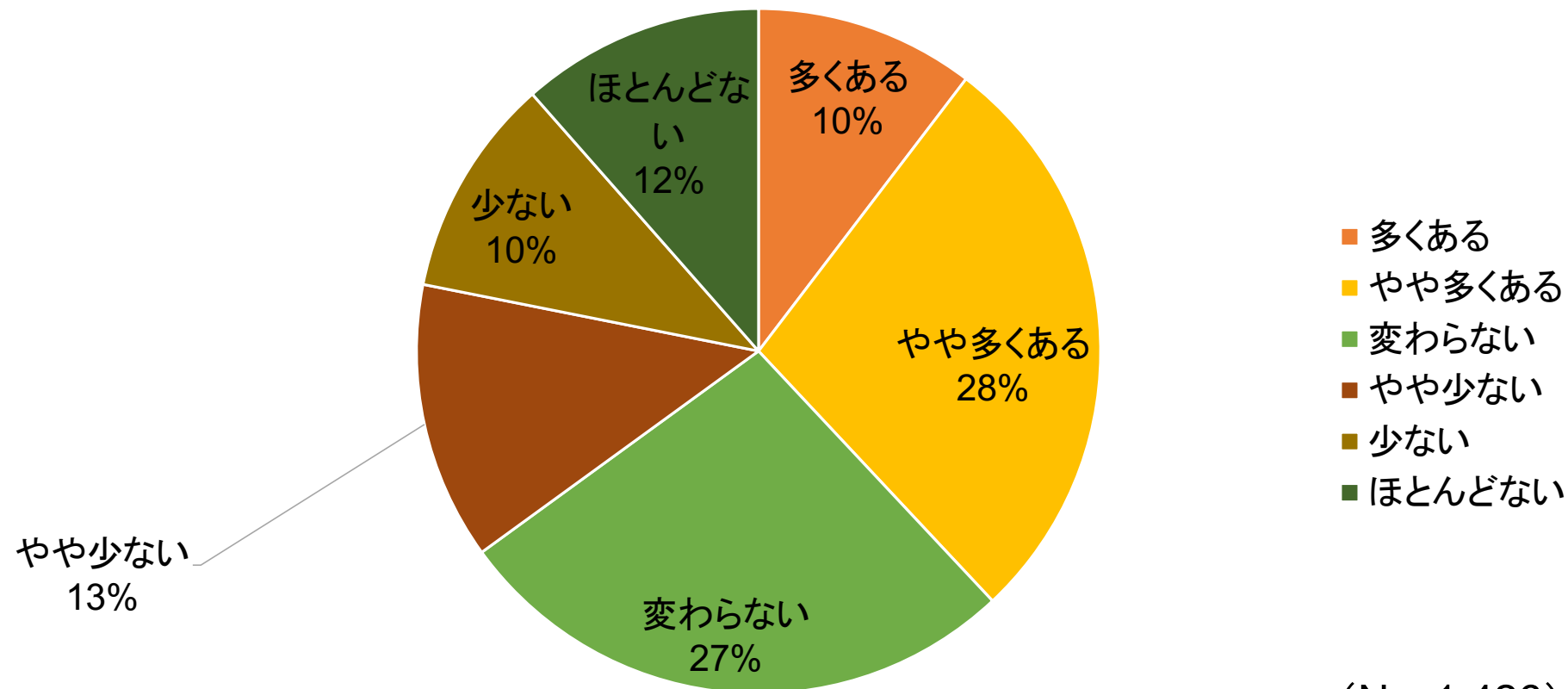
スマホ利用者はパソコンに比べ、学習時間が少ない

対面講義とオンライン講義の比較

この講義をもう一度、受講経験がなくはじめて受けるとすると、今のようなオンライン講義がいいか、対面型講義がいいか、どちらでしょうか？



オンライン講義の中で、従来の対面型講義と比較して、学習効果が上がったと思う講義はどのくらいありましたか？

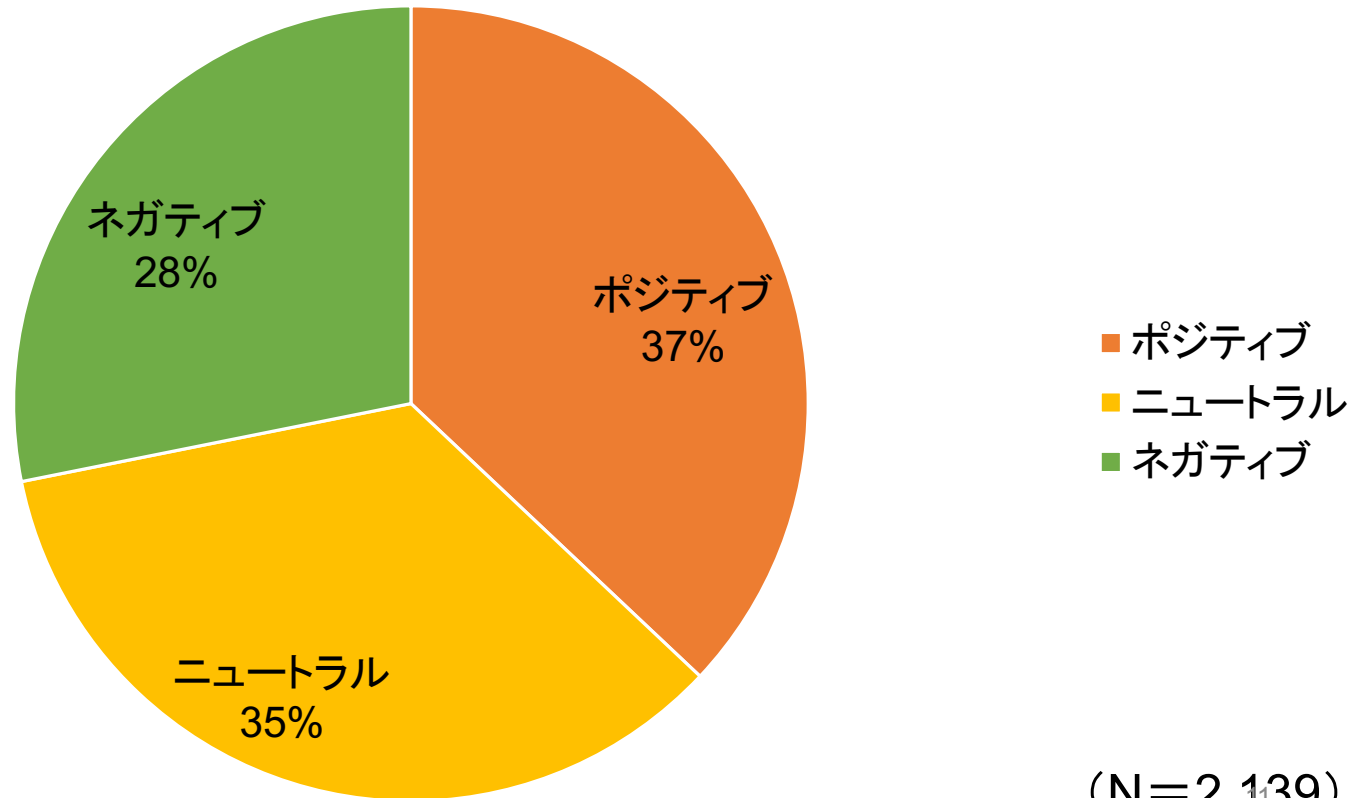


(N=1,426)

従来の対面型講義と比べて、この講義に限らずあなたが受講しているオンライン講義全般について、あなた自身はどのように考えていますか。あなた自身の考えを自由にお答えください。(自由記述)

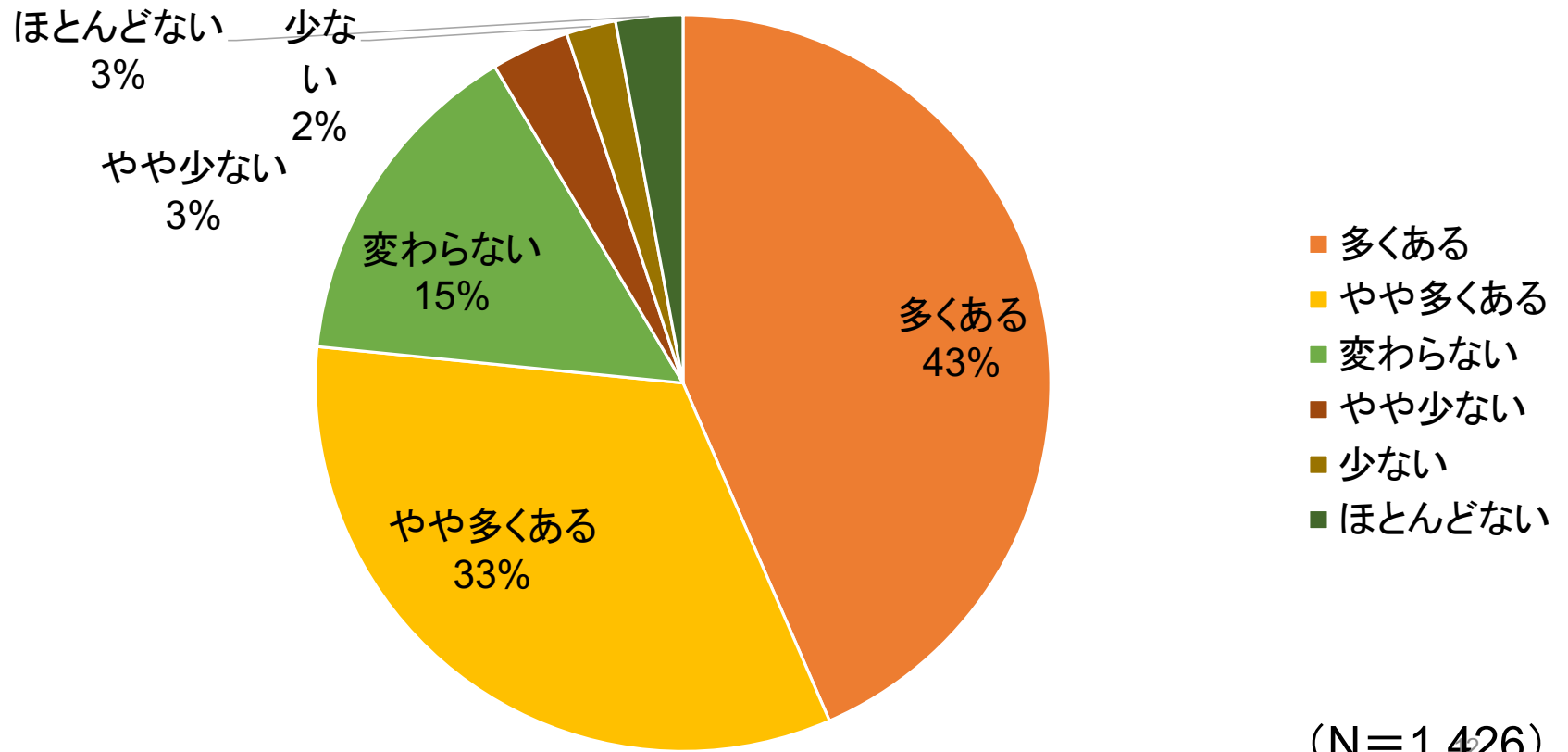
アンケート回答文を東洋大学総合情報学部安達由洋研究室が開発したAIを用いた感情分析システムを使い、ポジティブ、ニュートラル、ネガティブのカテゴリへ分類。

一つの回答に複数の文章が含まれる場合には、各文に分けて分析したため、Nは2,139となった。

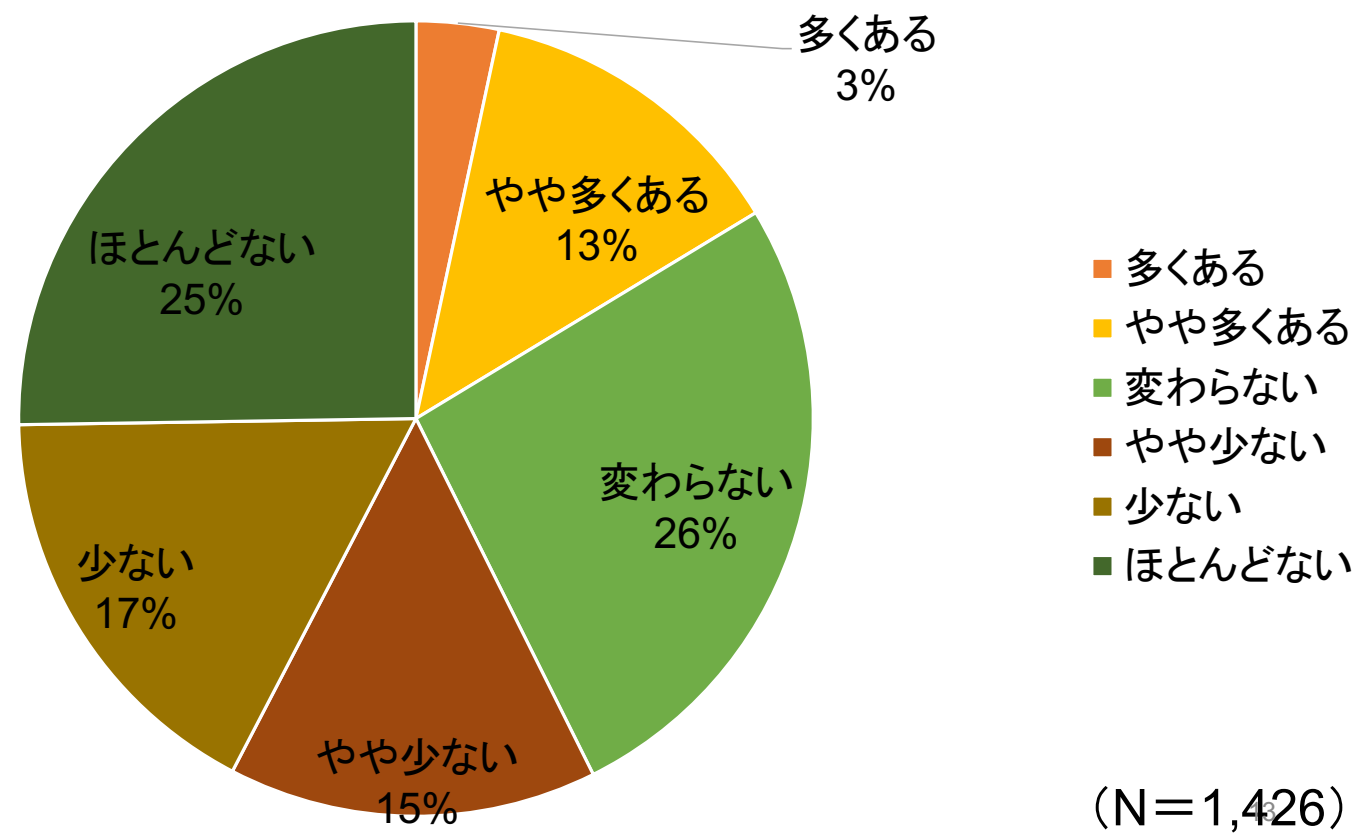


(N=2,139)

オンライン講義の中で、従来の対面型講義と比較して、予習、復習、課題提出等を含めて、総学習時間が増えたと思う講義はどのくらいありましたか？

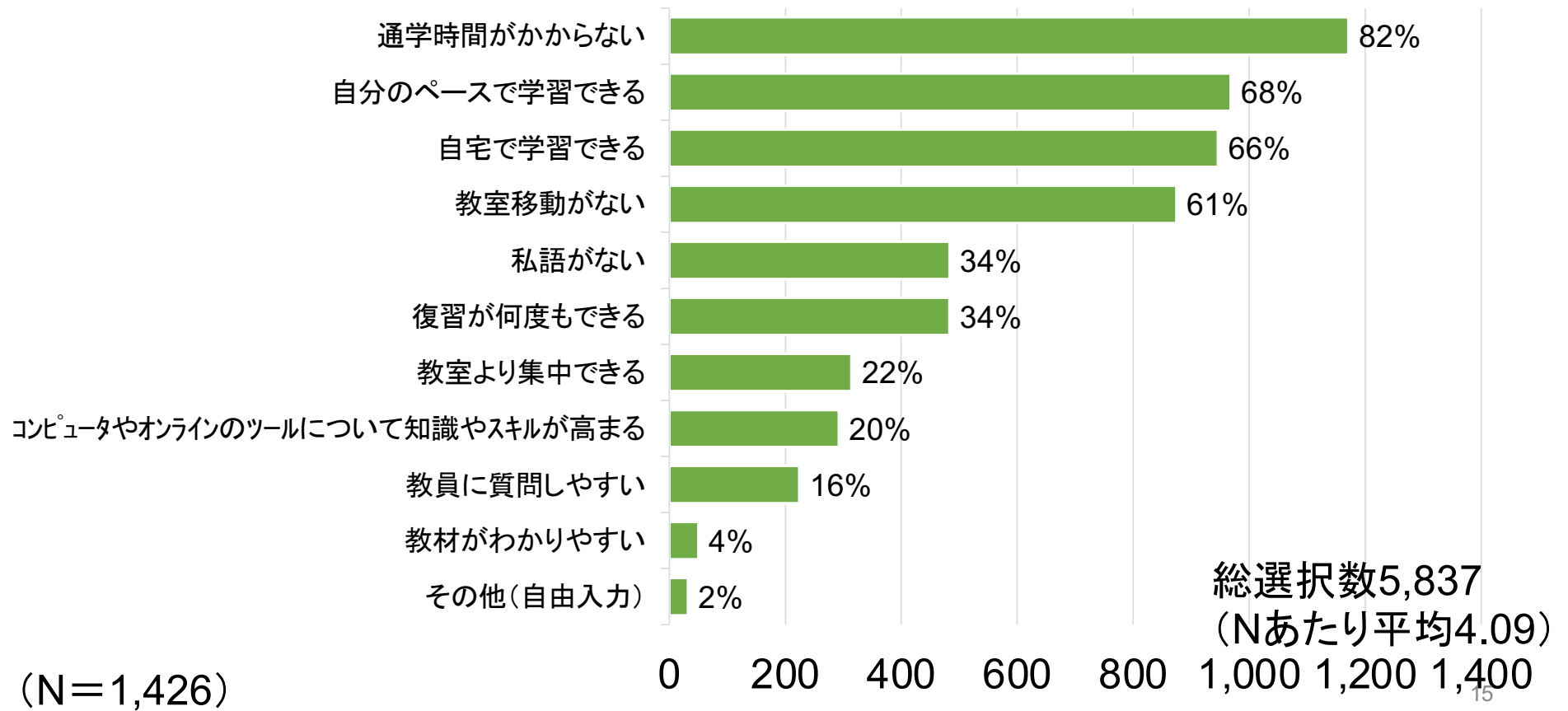


オンライン講義の中で、従来の対面型講義と比較して、教員とのコミュニケーションの機会が増えたと思う講義はどのくらいありましたか？

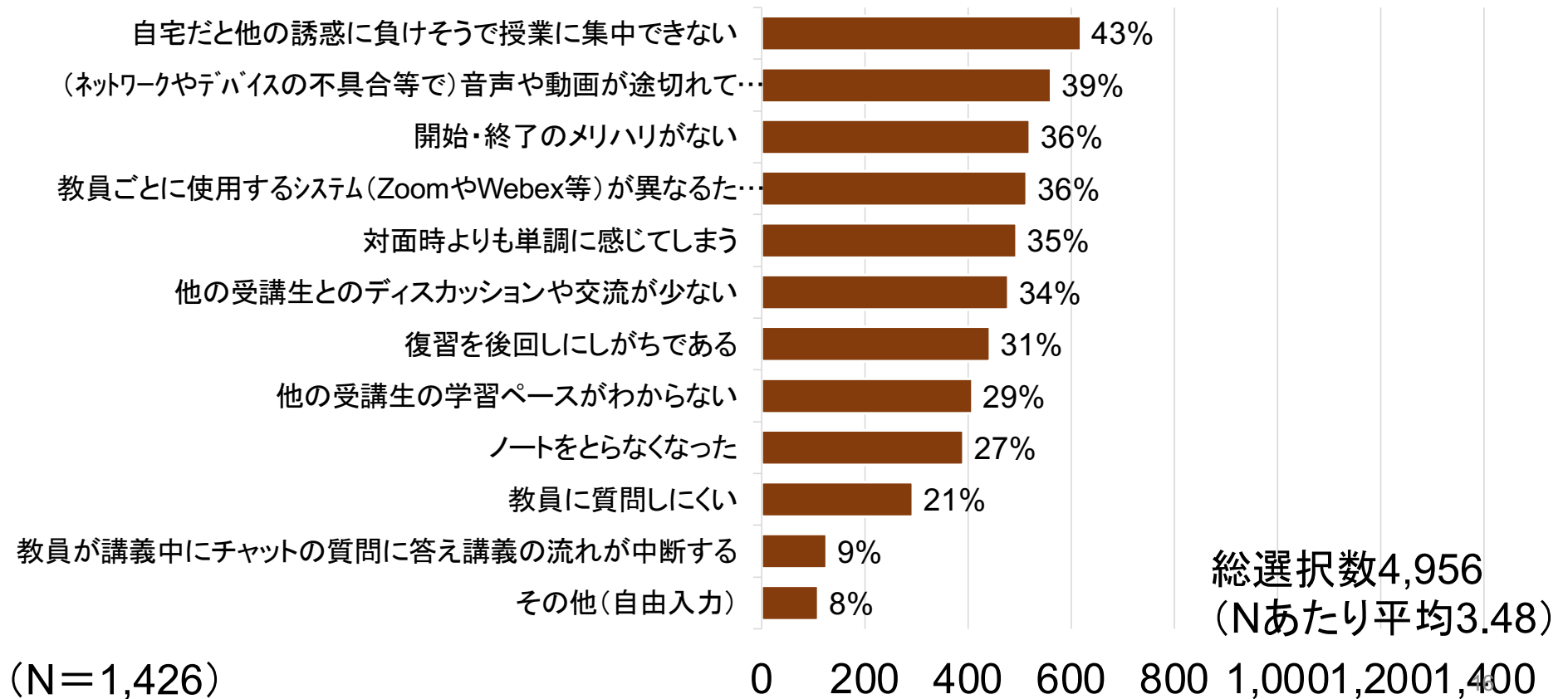


オンライン講義の評価ポイント

オンライン講義が、従来の対面型講義と比較して、良いと思う点を挙げてください。(複数選択可)



オンライン講義が、従来の対面型講義と比較して、劣ると思う点を挙げてください。(複数選択可)



Positiveの代表的な回答

- オンライン授業は、自分の好きな格好、好きなスペースで気楽にできて、楽しく学べるので、オンライン授業を推奨します
- 時間に左右されることなく課題を行えるため意欲的に勉強することが出来てとても良い
- オンラインでの授業だと自宅で行うことになるので集中力を維持することが問題となりますが、わからないことがあった時など先生にメールを送りやすいですし、何より気軽にチャットで質問できることが良いところだと思います
- オンライン化が徐々に進行している現代において大学だけでなく学校そのもののあり方を変革させる起点になりうるのかなと感じた
- 少人数制の討論系の授業以外は、対面でやるメリットは学生側には一切ないと実感した
- 対面の授業では大勢がいる中で質問するのは気が引けますが、チャットだとそこまで心労はありませんし先生の存在をより身近に感じることができました

Negativeの代表的な回答

- 対面型授業と比べて、他の人の学習状況や就職活動状況がわからなくて不安になる部分がある
- 友人と学習状況の共有等が出来ず、非常に不安であった
- しかし、教員によっては、対面型以上に授業のコントロールをできない教員がいるのは気になる
- 先生が説明している姿と講義の資料を同時に見にくかったので、理解が対面型講義より難しかった
- 一方で対面型講義よりも課題が多く、レポートに追われることが多かった
- 対面授業の時よりも生徒同士で何かに取り組んだりする場が減ったため、とてもモチベーションが低くなった

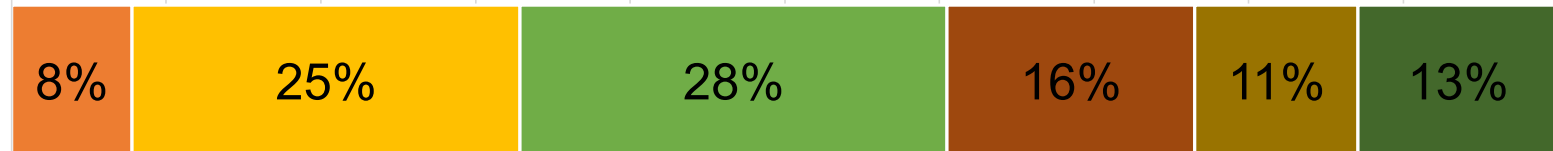
オンライン講義の評価（クロス集計）

学年別

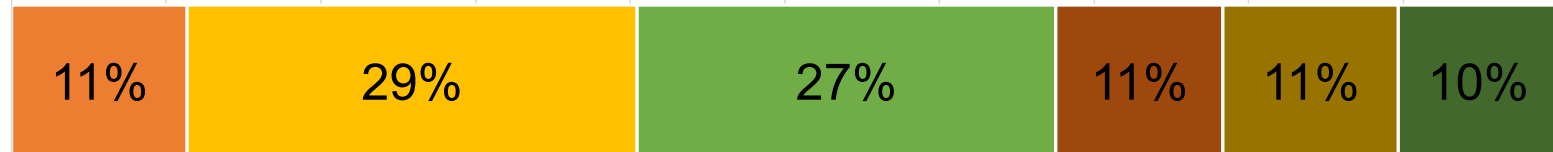
オンライン講義の中で、従来の対面型講義と比較して、学習効果が上がったと思う講義はどのくらいありましたか？

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

2年生
N=681



3年生
N=591



4年生
N=148

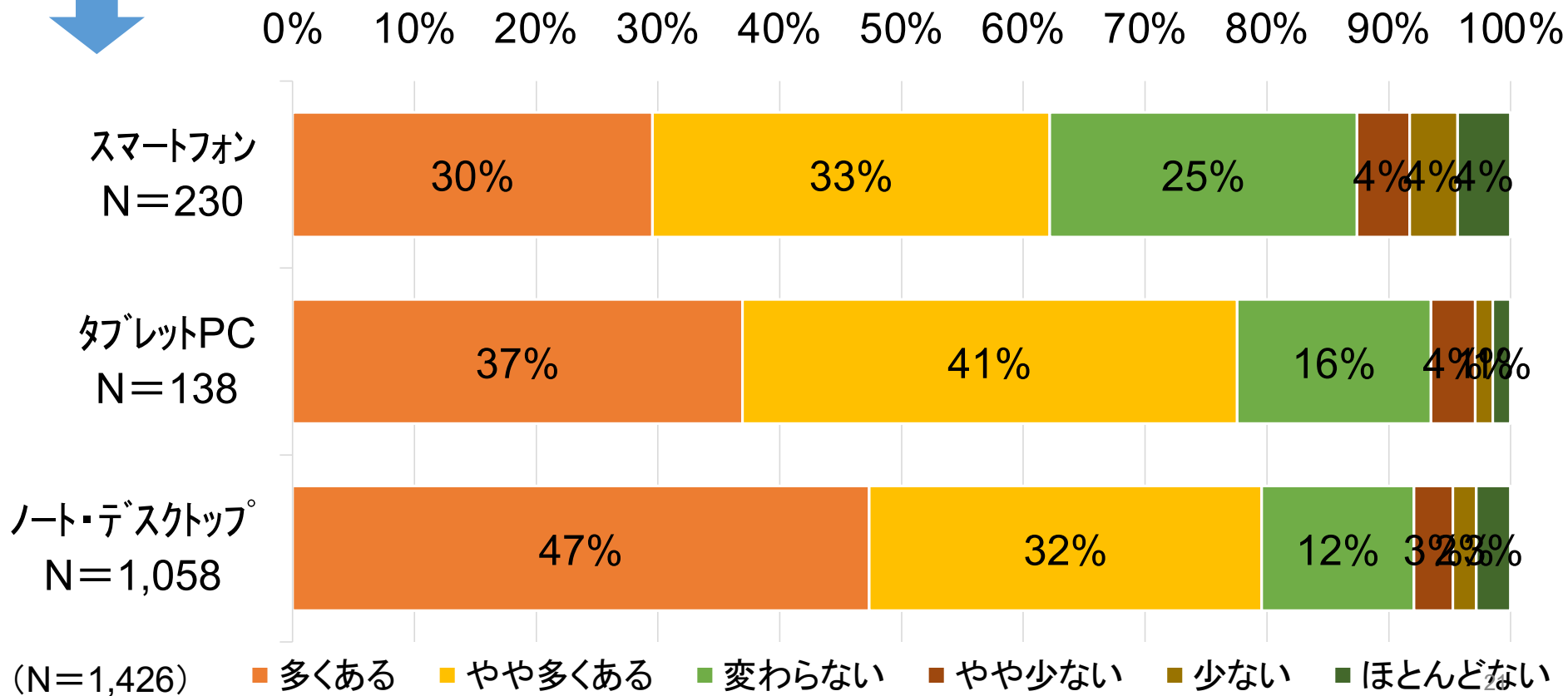


(N=1,420)

■ 多くある ■ やや多くある ■ 変わらない ■ やや少ない ■ 少ない ■ ほとんどない

主デバイス別

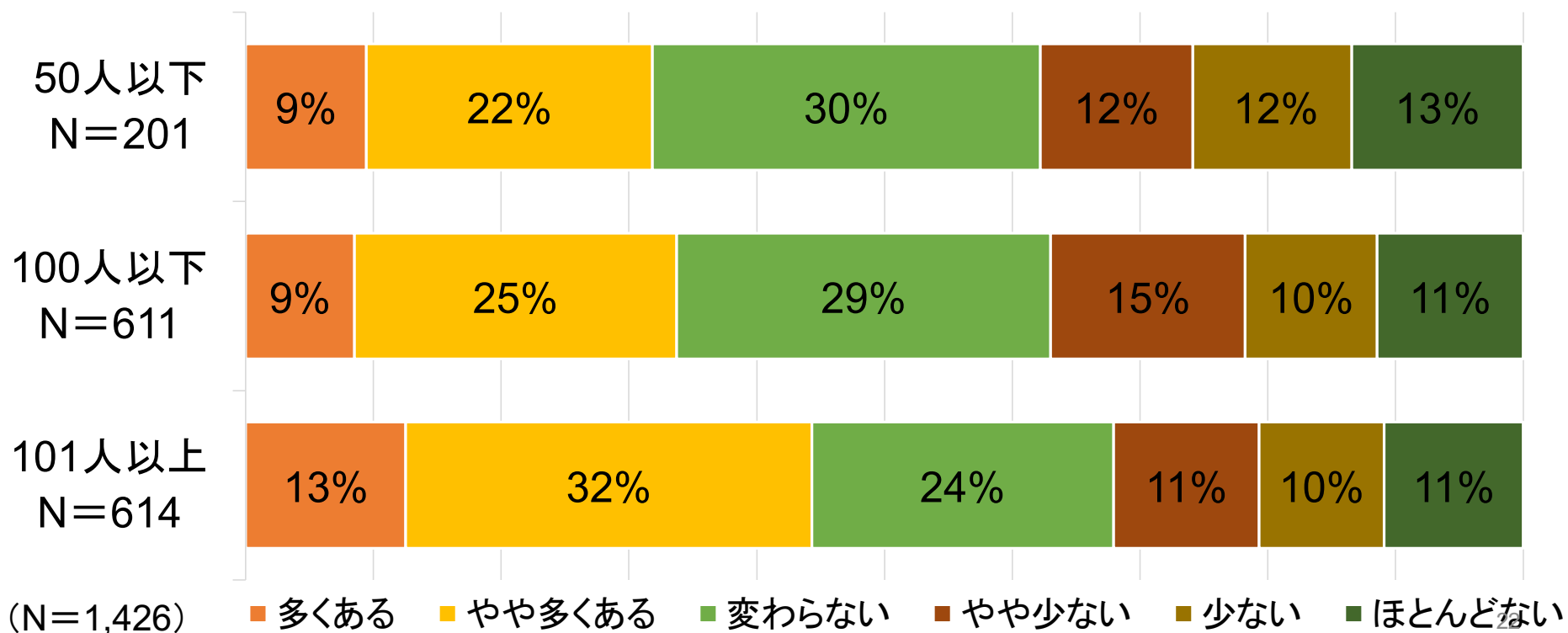
オンライン講義の中で、従来の対面型講義と比較して、予習、復習、課題提出等を含めて、総学習時間が増えたと思う講義はどのくらいありましたか？



授業規模別

オンライン講義の中で、従来の対面型講義と比較して、学習効果が上がったと思う講義はどのくらいありましたか？

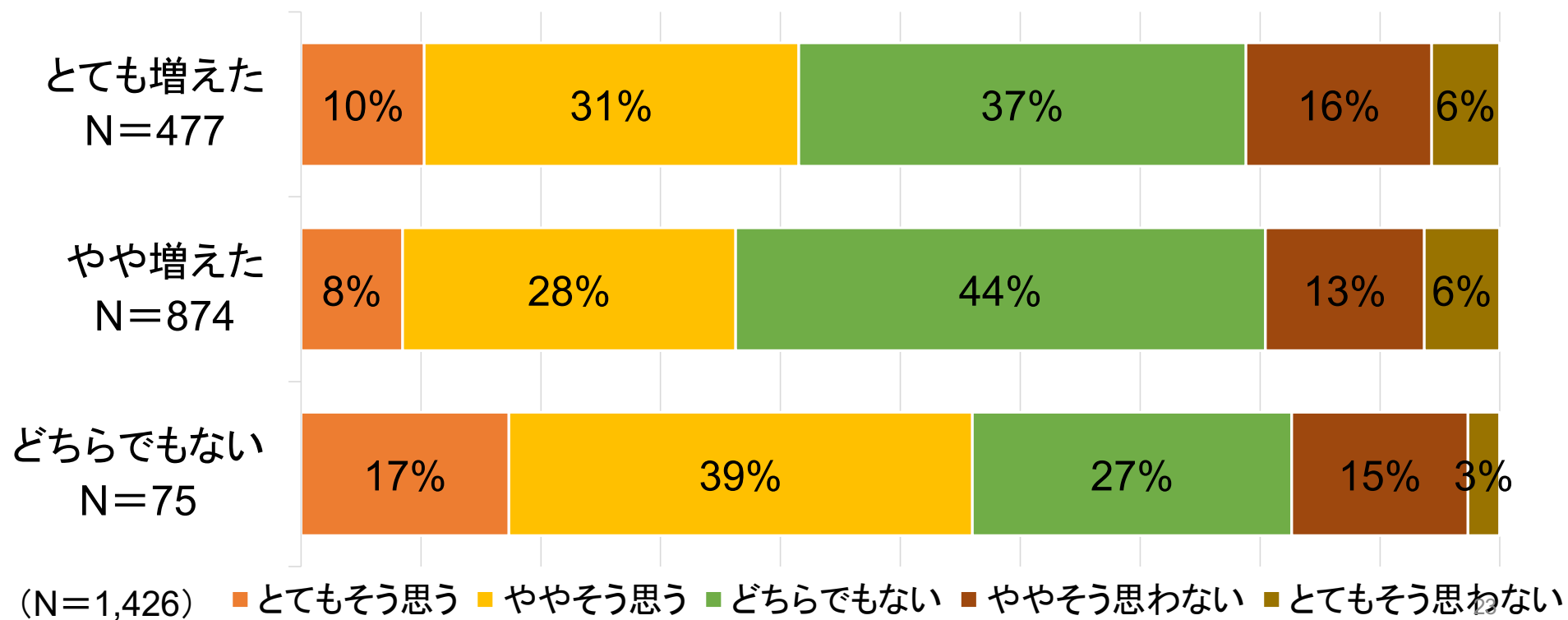
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



教員の
総時間別

この講義は、従来の他の対面型講義と比較して、学習効果は上がったと思いますか？

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



授業料に関して

(本アンケートでは、授業料についての設問はないが、自由回答文には授業料についてのものが見られたので、紹介する。)

- ・通学時間が無くなってその分課題をこなす時間が増えて有意義であるが、レジュメを配るだけの教員がいることを踏まえても、今期の授業料は減額すべきである
- ・そういった媒体を読むだけなら、インターネットで調べれば情報はたくさんあるので、そのような講義に高い授業料を払うことはもったいないと感じる
- ・通信制大学に授業料を支払っているつもりはない
- ・対面ではないため、同じ授業料を取られることが奨学金を受けてる身からして納得しきれない部分がある
- ・教授たちも不慣れだったため今学期は授業料を無駄にしたと強く感じた
- ・対面授業に比べてオンライン授業だと明らかに授業の質が落ちているのにも関わらず、授業料が変わらないことに理解できない

- サイバー大学 268万円
- 八洲学園大学 105万5000円
- 東京通信大学 62万円

文部科学省

- 「上限の算定に含める必要はない」（文部科学省高等教育局長「令和二年度における大学等の授業の開始等について（通知）」（令和2年3月24日・元文科高第1259号
- 2000年（平成12年）11月 大学審議会
- 「近年の急速な情報通信技術の発達とその普及により、インターネット等の情報通信技術を活用した授業についても、きめ細かな学習指導が行われることにより、**全体として直接の対面授業と同等の教育効果を確保することができる**と考えられる」（「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について（答申）」

研究メンバー

青木 滉一郎 東洋大学総合情報学部
安達由洋 東洋大学総合情報学部
穴山 悌三 長野県立大学
グローバルマネジメント学部
伊藤 昭浩 名古屋学院大学商学部
植野 一芳 大東文化大学社会学部
小河 智佳子 都留文科大学情報センター
加藤 千恵子 東洋大学総合情報学部

小松 昭吾 東洋大学総合情報学部
齊藤 由里恵 中京大学経済学部
澁澤 健太郎 東洋大学経済学部
戸田 香 朝日放送テレビ／京都府立
大学公共政策学部非常勤講師
藤井 大輔 東京交通短期大学運輸科
松原 聡 東洋大学経済学部

(五十音順)